

高崎経済大学における活動状況、環境整備状況等に関する意見書

【評価すべき事項】

1．教育内容・方法

きめ細かな情報処理教育やインターネット等を活用したICT利用教育がなされている。たとえば、24時間、いつでも英語を学べるe-learningの環境を全学生に整え、TOEIC受験を義務化していることなどや、大学後援会が年会費を負担し、一括受験の機会を整えていることなどは十分評価できる。

2．学生生活

学生が健康で有意義な学生生活を送ることができるように、学生環境検討委員会、学生相談連絡会議、六者会議等を設置し、多面的な対応をしていること。また、経済支援、研究活動支援等も組織的に行っていることは十分評価できる。

3．研究活動と研究環境

各種の競争的教育プログラム（特色GP、現代GP、戦略GP等）に毎年採択されており、研究を基礎とした教育的取組の実績は十分評価される。

4．社会貢献

大学の地域貢献が重視される中、各学部、各研究所とも多種多様な活動をし、十分実績を上げているが、特に、全国的に数少ない地域政策学部、大学院を設立し、地域づくりを担当する人材育成や、地域連携活動にユニークな活動をしており、成果も十分上げていることは、十分評価できる。

【改善すべき事項】

1．入学者受け入れ方針

理念・目的等にしがった入学者受け入れ方針、「アドミッション・ポリシー」を打ち立てて、社会に示すことが望まれる。

2．評価・改善委員会の活動と教員のFD活動について

評価・改善委員会を設置し活動し、今回報告書を作成しているが、今後とも、継続的に評価・改善・改革が行われるシステム構築が望まれる。

教員のFD活動については、さらに、学生による授業アンケート評価の活用法、教員同士の授業参観等の実施と組み合わせて、教員の教育力増進が図れるようなシステムの構築が望まれる。

3．教員評価システムの構築

教育・研究・社会貢献・管理運営など多面的な教員評価とその結果の活用法等のシステム構築が望まれる。

【総括】

ここ10年間、学科新設、大学院修士課程、博士後期課程の設置など、大幅な組織改編拡充などを行い、学士課程、大学院の充実、教育・研究等で十分実績を挙げている。

国県市町村や地域と連携して多様な成果を上げているが、今後さらなる地域貢献を期待する。

大学の質の向上に向けて、継続的発展に向けて、更に一層の改革を期待する。

2010年3月24日

高崎経済大学外部評価委員会委員

A委員

ご質問等を自由にご記入ください。

高崎経済大学における活動状況、環境整備状況等に関する意見書

【評価すべき事項】

1. 教育研究組織：地域政策学部の創設は、地方の大学として特に評価すべきことである。さらに、観光政策学科の創設は、時代を反映した時宜を得たものと思われる。
2. 学生の受け入れ：全国各地に試験会場を設け、多くの受験生を集め、優秀な人材育成に努めていること。
3. 学生生活：学生への経済的支援について種々の制度を設けており、同窓会奨学金制度は特筆される。

【改善すべき事項】

1. 学生の受け入れ：経大附属高校との関係
今後は少子化の傾向が強まっていく中で、固定客の確保は大変重要なことと思われる。独立法人化を向えて、経大附属高校からの入学選抜について、附属高校のレベルアップに寄与することも考慮して、選抜数の枠組みについて検討したらどうかと思われる。
2. 施設・設備：現在のキャンパスは少し狭いのではないか。校地拡張あるいは、中心市街地でのサテライト授業も考えられるのではないか。
3. 財政：法人化になった場合の財政基盤の確立が重要である。高崎市との関係はもちろんのこと、後援会、同窓会との連携も大事になってくると思います。大学・後援会・同窓会との連携協議会みたいなものを設けたらどうかと思います。

【総括】

高崎経済大学は、昭和 32 年に創設され 52 年の歴史を誇り、自他共に認識され有名大学の一つになりました。今後は、未整備な点、拡充すべき点を点検し、優先順位をつけ「選択と集中」の考えで整備充実していくことが必要かと思えます。

2010年3月29日

高崎経済大学外部評価委員会委員

B 委員

ご質問等を自由にご記入ください。

高崎経済大学における活動状況、環境整備状況等に関する意見書

【評価すべき事項】

- ・1957(昭和32)年の開学以来、単科大学として発展を遂げてきたが、96年に地域政策学部地域政策学科、2003年に同学部地域づくり学科、06年に同観光政策学科を開設、学部だけでなく大学院、研究施設なども一層充実し、「商都高崎の伝統を踏まえて、実学で学生を教育」している。
- ・いち早く試験会場を高崎だけでなく、札幌、仙台、東京など全国8カ所に設置し受験可能として、その結果、全都道府県から学生が集まり、高い競争率を維持している。
- ・図書館を高崎市民、群馬県民に広く開放しているほか、公開講座、学術講演会、企業や各種公共団体との連携事業など、幅広い社会貢献を果たしている。

【改善すべき事項】

「大学の理念、目的、目標などは広く周知されている」とされており、これといった改善すべき内容は見つけにくい。ただし、敢えて言わせてもらえれば、群馬県人及び高崎市民は概してPR下手であり、その塩梅、加減がよくわからない。

例えば、上記図書館の市民・県民の利用(他公立大学に比べ遜色ない状況と表記されているが)、三扇祭への近隣住民の参加はどのくらいあるのだろうか。また、地域政策学部の3学科、とりわけ地域づくり、観光政策学科の目指す人材がどのようなものかなどの点は到底よく知られているとは思わず、さらなる幅広いPRと積極的な市民、県民との交流が望まれると言えよう。

【総括】

高経大の知名度は極めて高く、卒業生の多方面での活躍も手伝って、その名は全国津々浦々に知れわたっている。しかし、少子化が進む半面、現在は70校を超える公立大学があり、国立大も含め私立大との学費の差も少なくなってきたことなどから、積極的に他大学との差別化を図り、選ばれる大学を目指さなければならない。

そのためには、受験生 在校生 卒業生 同窓生というプロセスを踏まえ、現状の認識と問題点をあぶり出した上でのブランド戦略が不可欠。具体的には UIの確立(HPの刷新、校名の検討、マーク、キャラクター、女子高生にも話題となるカレッジグッズ作成など) 魅力づくりの推進と積極的なPR(高崎の地の利など) スポーツ、文化によるマスコミへの掲示頻度アップと一層の施設開放、地域交流 などである。

2010年3月30日

高崎経済大学外部評価委員会委員

C委員

ご質問等を自由にご記入ください。

- ・ 公立大法人化によるメリット、デメリット
- ・ 学生の気質
- ・ 一般的な学生生活
- ・ 学生は高経大をどうとらえているのか（愛校心・ロイヤリティ度など）

高崎経済大学における活動状況、環境整備状況等に関する意見書

【評価すべき事項】

- ・ 本学は以前（開学以来？）から、地方の一地域にとどまらず全国各地からの学生の受入に意欲的に取り組んできた。このことが実を結び、現在、全国型の地方公立大学として教育・研究・人材育成に取り組み、各地に人材を輩出していることは評価できる。
- ・ 一方では、地方の大学ならではのフットワークの良さを生かして、産業研究所や、地域政策研究センターを設けるなど、地域と一体となった活動を展開し、地域活性化の核として存在するとともに地域密着の教育・研究を展開するなど、地域に貢献していることは大いに評価できる。

【改善すべき事項】

- ・ 大学の主旨はなんといっても教育・研究であり、その因って立つところは教授陣の質・量両面にわたる確保である。専任教員一人当たりの学生数を少なくするとともに、研究業績の適切な評価を行い、教員のモチベーション及び資質の向上を図ることが必要である。
- ・ 図書館は、知の獲得の場である大学における象徴的存在である。情報媒体が日進月歩で変化するこの時代、紙媒体にとどまらず各種メディアの活用方策を検討し、諸施設の中で最もアカデミックな存在であることを知らしめることが必要である。

【総括】

- ・ 公立大学法人化に向けて準備が進んでおり、ともすれば本来業務以外（？）のことに力が振り向けられるかもしれないが、大学本来の機能である研究、教育に影響が及ぶことのないよう配慮願いたい。
- ・ 大学は、高等学校の学習の成果と社会の求める学卒生の能力の狭間を埋める教育機関である。近年ではこの狭間が広く深くなってきているように思えるだけに4年間は相対的に短くなってきている。そんな中で余裕をもった、かつ集中した研究、教育が行えるような環境整備をお願いしたい。

2010年3月31日

高崎経済大学外部評価委員会委員 D委員

ご質問等を自由にご記入ください。

特になし